えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団
えひめ水産イノベーション創出地域
TEL 089-960-1153　FAX 089-960-1105
E-mail：sakamoto@ehime-iinet.or.jp
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第２５号　平成２７年１月７日（水）発行

今年は未年。本年もよろしく。
明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いします。

今年は**未年**。この**未**(ひつじ)という字は、「読書三昧」や「曖昧」の**「昧（まい）」**の字から派生したもので、**“植物がうっそうと茂って暗くなっている様子”**を意味しているのだそうです。

ひつじ年の今年は、宇和海の水産業が「植物がどんどん茂る勢い」で進展し飛躍の年になることを皆さんで期待しましょう。

今年、地域支援戦略プログラムは５ケ年事業の４年目を迎えます。いよいよ、事業の仕上げに向けての大事な年となります。引き続き、皆様方のご支援、ご協力をいただきながら「宇和海の水産業の活性化」のため事業を推進して参りますのでよろしくお願いします。

中間評価のヒヤリング

昨年末、「地域支援戦略プログラム」の事業開始３年目となる地域の事業を対象に、文部科学省から委嘱された委員による「中間評価ヒヤリング」が行われました。

「えひめ水産イノベーション地域」は、12 月 22 日(月)に東京都新宿区左門町㈱三菱化学テクノリサーチの会議室においてヒヤリングがあり、プロジェクトディレクターから招へい研究者による５つの研究課題と人材育成についての事業の進捗状況、事業終了年に向けての取り組みや研究成果の事業化について、パワーポイントを用いて 15 分間の説明を行い、その後、出席した 14 名の委員からの質問に対する質疑応答が２０分間ありました。

新たな招へい研究者の紹介

事業採択からこれまでの２年６ケ月間にわたり、**「流通システム等の抜本的改革による新たな水産ビジネスモデル構築に関する研究」**を担当していた**愛媛大学南予研究センター天野通子助教が 12 月 17 日付けで退職**しました。

後任として、**三重大学生物資源学研究科の鈴木幸子特定事業研究員が新たな研究員（同大学南予研究センター助教）として 12 月 18 日付けで招へい**されました。

鈴木助教は、平成 16 年 3 月に近畿大学農学部を卒業後、東京海洋大学大学院に進学して海洋産業の経済問題を専門とする婁小波教授に師事、同大学院を修了後は近畿大学農学部に戻り、水産経済学研究室の有路昌彦准教授に師事し、同大学のグローバルＣＯＥプログラムではクロマグロの養殖ビジネスモデルや養殖クロマグロのマーケティング戦略について、研究に従事していました。

今後は、これまでの経験を活かし、このプログラムが目指す**「新たな流通ビジネスモデル構築」や「地域における６次産業化の創出」への提言について、研究の加速・発展を期待**しています。

人材育成講座について

宇和海の水産業の６次産業化を担う人材の育成を目指した≪**水産イノベーションスキル修得講座**≫の**第９回の講座**が**１２月１３・１４日**に宇和島市（愛媛大学宇和島エクステンション）において開催されました。

１日目の講座は、**愛南町水産課 中村維伯課長、赤岡政典水産振興室長による「愛南町の水産振興」**と題し、町が取り組んでいる“びやびやかつお”等のブランド化、水産業の６次産業化や“ぎょしょく教育”等における愛媛大学との連携について、**宇和島保健所生活衛生課 得居 格係長による「食品衛生」**と題し、水産加工食品の営業許可、製造、食品表示、衛生管理等について、**遊子漁協女性部山内満子部長による「漁協女性部の地域づくり」**と題し、同女性部が取り組んでいる“遊子の台所プロジェクト”について、商品開発、販促活動についての講義がありました。

２日目は、プロジェクト研究の発表に向けてパワーポイントを用いた発表実習がありました。

第９回の講座の様子